

ふるさとのお話



実相寺の仁王門

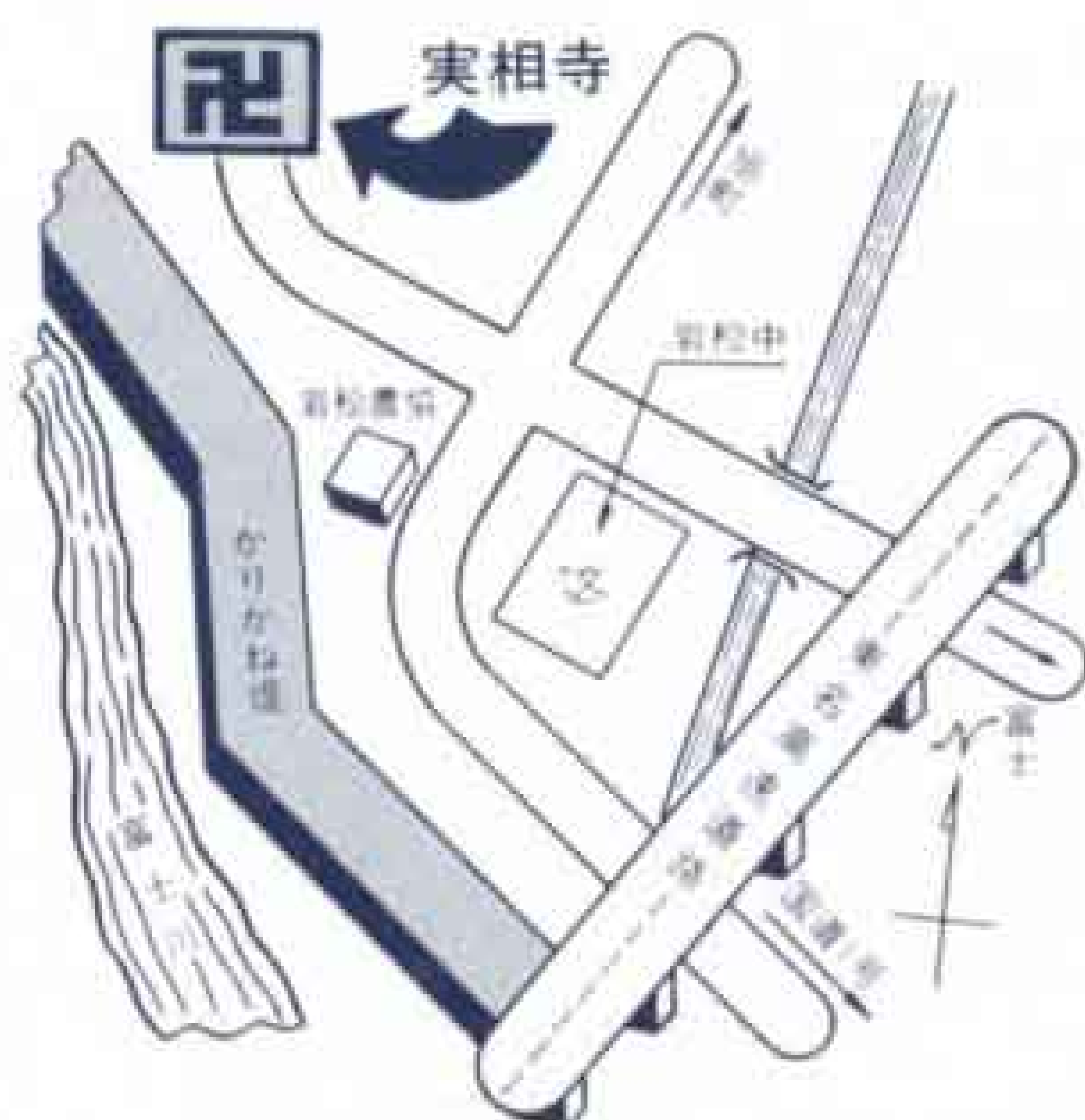
実相寺の 仁王さん

●日本のふしぎな話
「におうとどっこい」から

いわもと じつもうじ
岩本の実相寺に行ったことがありますか。実相寺は今から735年前の久安年間きゆうあんに建てられた市内で一番大きなお寺です。

ここにある江戸初期に作られた一対の仁王の木像はすばらしく市の指定文化財になっています。

今回は、この仁王さんのお話です。



桧材で作られた高さ241cmの実相寺の仁王像

昔、日本に仁王におうという力持ちが住んでおった。相撲を取っても、綱引きをしても一度も負けなかった。「わしと力くらべをするものはおらぬか」仁王は日本中を回ったが、だれも相手になりません。「仁王どんとなり隣の国の中国に『どっこい』という力持ちがいるそう」と教える者がいた。「よし、力くらべをしてみよう」仁王は舟をこいで中国へ出かけていった。

ほうぼう探し、どっこいさかの家を見つけたがどっこいは留守で、ばあさまがいた。「わしは、日本一力持ちの仁王だ。力くらべをしようとやってきたのに残念じゃ」というと、ばあさまが答えた。「そろそろ、お昼じゃもどってくるから、お待ちなさい」仁王が待っていると、ばあさまが飯めしのしたくに取りかかった。大きな釜かまに米を何俵びょうも入れ飯を炊きだした。ふしぎに思って「だれが食うんじゃ」と聞くと「息子のどっこいじゃよ」仁

王はびっくり、これはかなわん。今のうちに逃げようと思っていると、ズシン、ドッシン、ズシン…。「ばあさま、あれは何の音じゃ」「あれか、あれは息子の足音じゃ」仁王はあたりを見まわしたがどっこいの姿は見えない。まだ遠くを歩いているらしい。そのうちに、地震のように家が揺れだした。「便所めをかしてくだされ」仁王は便所から逃げた。

どっこいが帰ってくると入口に大きなわらじがあった。「お客さん？」「日本の仁王がお前と力くらべにやってきた。今、便所に入っている」ところがいつまでたっても出てこない。そっとのぞくといない。「力くらべにきたのに、どうして逃げるのだろう。連れもどしてくる」とどっこいは



大きないかりを持って追いかけた。

遠くに仁王の舟が見えた。どっこいは「力くらべをしないで逃げるとはひきょう」と言うと、舟めがけていかりを投げた。いかりは舟につきささった。仁王は舟をこぐ。どっこいは綱を引く。お互いに力持ち。とうとう綱が切れてしまい、仁王は海に落ち、どっこいも力余って海に倒れた。ドドド…大きな津波が起きて日本と中国に押し寄せ、大勢の人々が死んだ。

「悪いことをした。もう力くらべは一生しないから許してください」仁王は中国にも行ってあやまり、日本に帰ってからはお寺の門番になった。どっこいも日本にやってきて、あやまり「もし何か力のいる時は、おらを呼んでください。そうしたら一生懸命働きますから」そう言って帰っていった。それで、今でも力を出すときに人々は「どっこいしょ」とどっこいを呼ぶのだとさ。



一人でも待ちます きちんと青信号

須津小6年 栗田賀津子さん (中里1019)

昭和56年度の交通安全全国統一標語に応募して21万点の中から、歩行者用最優秀賞に選ばれ内閣総理大臣賞を受けました。この標語は、ことし一年間、全国で使われます。



富士市出身のマンガ家
望月あきらさんの作品